



日産合成工業株式会社 メールマガジン

2018・10 第141号



猛暑であった季節も過ぎ、澄み渡る空にすじ雲がたなびく、爽やかな季節が巡ってきました。「夕立の 雲もとまらぬ夏の日の 傾く山に ひぐらしの声」(新古今集)とあるように、季節を感じさせてくれるのが生き物だろうと思います。そんなわけで、拙宅の狭い庭にやってくる生き物を観察してみました。ケロケロと身体に似合わず大きな声で鳴くアマガエルの声を聴くと、天気が下り坂だと感じます。また、初夏からはひらりひらりと優雅に舞い、神の使いとされるハグロトンボが4羽ほど居ついています。羽は薄く、いかにも華奢な体つきです。ハグロトンボは一時期、その姿を見ることもかなわぬ存在でしたが、最近は少しずつ見られるようになったとかです。庭にはジャコウアゲハ(写真右下)、アカトンボ、トカゲ、モンシロチョウ、クマバチ、セミ、モズ、スズメ、ヤマバトなどなどがやってきます。年の暮れには南天と千両の赤い実が、一晩で消え失せてびっくりしたこともあります。住宅地に隣接して水田と水路があり、そこにはカルガモやサギ、冬にはカモがやってきます。



生物を呼び寄せるものとしてビオトープがありますが、難しく考える必要はないそうです。草木と手ごろな石を数個組み合わせて、隠れ家を作れば良いとのこと。

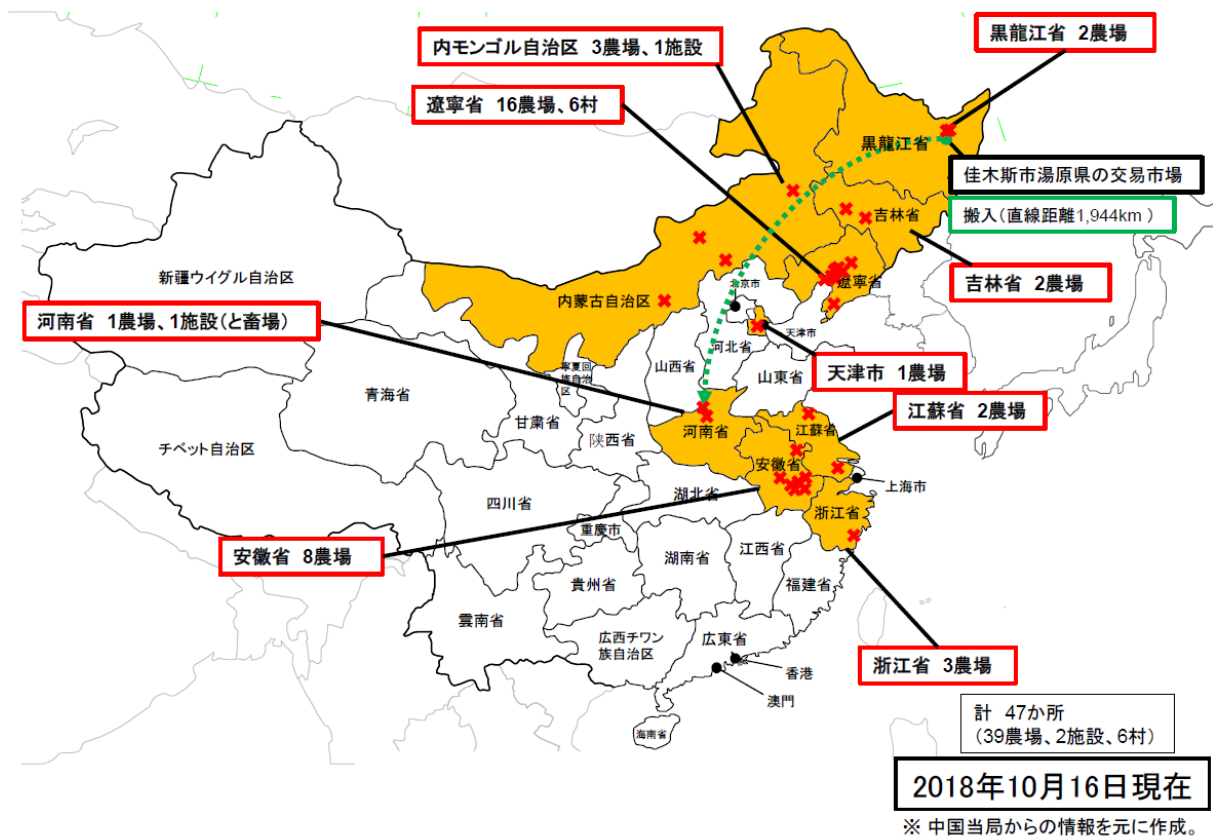
高度成長期には公害問題を引き起こし、ヒトの健康問題や自然環境の破滅を招きました。環境問題の重要性を指摘したのが、レーチェル・カーソン著の「沈黙の春」です。緑が広がっていても、そこには生き物の息づきが全く感じられない様子を描いています。最近刊行されました丸山貴史著の「わけあって絶滅しました」には、軽妙な語り口で動物たちが絶滅に至った訳が述べられています。巻頭言には「地球はみんなに平等。ただし、きびしい意味で」と絶滅に至った主な原因があげられています。また、「自然が引き起こした絶滅」と「人間がかかわった絶滅」は全く別物であり、人間による絶滅は次の進化した動物を生み出さないと述べています。多くの生き物が共存でき、進化できる環境を継続的に作り上げていきたいものです。

さて、ニッサンメールマガジン第141号をお届けします。

中国におけるアフリカ豚コレラ感染の拡大

中国でのアフリカ豚コレラは拡大しており、沈静化の目途が見通せない深刻な状況に落ちています。感染状況は日々更新されており、10月17日現在、1市8省1区の52か所（44農場、2施設、6村）で感染豚が発見されています。この中では2万頭規模の大農場が初めて報告されています。アフリカ豚コレラは感染力が強く、死亡率も極めて高い特徴があります。これが、我が国に持ち込まれたなら、養豚業界のみならず、食生活に与える影響は計り知れないと報道されています。動物検疫の強化のみならず、旅行者も十分な注意を払うべきと考えられます。

中国におけるアフリカ豚コレラの発生状況



わが国でもA2 ミルク生産開始か

先月号で、ニュージーランドや欧州でのA2 ミルク生産の動向について掲載しましたが、我が国でもA2 ミルク生産が限定的ながら開始されるようです。カゼインタンパク質にはA1 とA2 タイプがありますが、A2 タイプの方が消化性も良く、ある種の疾病対策にも有効であると言われています。この論議には科学的根拠が不明ですが、世界的には急速にA2 ミルクが拡大していることも事実です。このような情勢から、限定的ながら、わが国でもA2 ミルクの生産に至ったようです。ただし、分別化のための費用などがかさんで、かなり高額になるようです。今後の情勢を見守りたいものです。

お知らせ

印刷用の PDF ファイル

印刷用にPDFファイルを添付しました。PDFファイルをご利用いただくためには、Adobe Readerが必要です。お持ちでない場合、[こちらからダウンロードし、インストールしてご利用ください。](#)

メールマガジンへの登録・質問等

メールマガジンの配信の停止、登録内容の変更等は[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページをご利用ください。

このメールマガジンへのお問い合わせ、ご意見・ご要望等、並びに技術的な問題等がございましたら、[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページをご利用ください。

酪農・豆知識第 121 号の概要および URL

黒毛和種繁殖牛においては分娩後に産子に自然哺乳をさせています。その結果、卵巣機能回復は搾乳している乳牛に比べて遅いとされています。その回避策として、早期離乳などが行われているのですが、哺乳行動と哺乳量などについての理解はさほどされていないのが現状です。そこで、哺乳行動や哺乳量などについて解析しましたので、数回にわけて掲載する予定です。

「酪農・豆知識」は、[当社のウェブサイトのトップページ](#)にある「技術情報」をクリックし、「酪農・豆知識」のページに入るとご覧になれます。ぜひご利用ください。

アドレス変更をお忘れなく

人事異動、転退職等でメールアドレスが変更になった場合で、引き続き日産合成工業株式会社のメールマガジンの配信を希望される方は、旧アドレスと新アドレス及び新所属等を[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページを利用してお知らせください。配信できなくなったアドレスは、メーリングリストから自動的に削除しておりますので、よろしく申し上げます。

また、今後の配信が不要な場合にも[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページを利用してお知らせください。

QR コード

このメールマガジンを紙媒体でお読みの方が、容易に[当社のウェブサイト](#)のトップページにアクセスできるように QR コードを添付しました。

